



カンボジア王国 「分娩時および新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」
 ~ Project for Improving Continuum of Care
 with focus on Intrapartum and Neonatal Care in Cambodia (IINEoC Project)~

ニュースレター 第8号
 2017年3月

スバイリエン州向けに、出生直後の新生児ケア(INC : Immediate Newborn Care)研修を開始しました。

本プロジェクトでは、昨年12月よりコンポンチャム州において出生直後の新生児ケア(INC)研修の実施支援を本格開始しましたが(※コンポンチャム州での研修の様子は、第5号ニュースレター(2016年12月発行)を参照)、今年3月よりスバイリエン州にも対象を広げ、同研修の実施支援を始めました。まだスバイリエン州では研修講師となれる人材がまだ少ないため、プノンペンの国立母子保健センター研修部と協働して研修を実施しました。今回の研修は研修講師候補のメンバーの講師育成の意味も含まれており、近い将来はスバイリエン州独自で研修が実施することを目指します。

スバイリエン州病院には、十分な新生児治療室設備がなく、新生児治療・ケアのための医療機材、技術を持った専門スタッフが絶対的に不足しています。新生児室が存在し、スタッフが配備されているコンポンチャム州病院と比較しても、新生児治療・ケアはまだまだ初歩的な段階です。そのような状況で、お産に直接関わる州病院や保健センターのスタッフが、特別な設備や機材を必要とせずに基本的な手技を身につけるINCを学び始めたことは、「限られた資源の中でもできる新生児ケア」への大きな一歩となりました。



手技の実習の様子。



研修後の総括の様子。



スバイリエン州研修受講者、研修講師、プロジェクト日本人専門家と。

スバイリエン州ではまだ数多くの医療スタッフがINC研修を受講できていません。プロジェクトでは、スバイリエン州内でINC研修受講が必須である全ての医療スタッフの100%受講を目指し、今後も研修の実施支援を行っていきます。

保育器、その他新生児ケアに関連する機材を供与しました。

第6号ニュースレター(2017年1月発行)でお伝えした通り、新生児室でケアやそれに関連した研修に使用する様々な機材を今年1月から3月にかけて導入しました。今年1月のCPAP(持続陽圧呼吸療法装置)の供与を皮切りに(導入やCPAPトレーニングの様子は第6号ニュースレター(2016年1月発行)を参照)、下記の機材をプロジェクトの対象地域である国立母子保健センター、コンポンチャム州病院、スバイリエン州病院に供与しました。

プロジェクトでは、機材供与時に使用に関する短時間のトレーニングを行っていますが、これにとどまらず、これらの機材をより正しく、効果的に使用し新生児治療・ケアの技術を上げる2~3か月の集中研修を短期専門家を投入して実施する予定です。コンポンチャム州、スバイリエン州の新生児スタッフを国立母子保健センター新生児室に招き、2~3か月のOJTを通して診断・治療、機材の使い方を集中的に学び、定着をはかることが目的です。

特に、スバイリエン州病院では、保育器のような不可欠な機材の正しい使用方法を知るスタッフが一人もいないのが現状です。この集中研修で徹底的に学ぶことで、州病院での新生児治療・ケアの体制が強化されることが期待されます。

供与した機材

- CPAP(持続陽圧呼吸療法装置)
- 保育器
- 新生児用喉頭鏡
- 新生児用聴診器
- 挿管練習用新生児マネキン
- 新生児蘇生練習用マスク&バッグ



供与された保育器。国立母子保健センターでのトレーニングの様子。



供与された新生児マネキン(左)、新生児用聴診器(上)、喉頭鏡(中央)、マスク&バッグ(右)